

議題 1 ダブルディグリー実施にあたっての課題等の共有

◆ 23A-II 大阪大学（広島大学、名桜大学、長崎大学）

プログラム名：「アジア平和＝人間の安全保障大学連合」を通じた次世代高品位政策リーダーの育成

・対象の国・大学・（研究科・専攻）

国	大学名	研究科・専攻等
フィリピン	De La Salle University	College of Liberal Arts

・現在の取り組み内容・課題

平成 27 年度 4 月よりダブルディグリー・プログラムでデ・ラ・サール大学の学生 1 名を大阪大学大学院国際公共政策研究科へ受入中である。当該の学生は双方の大学院修士課程を平成 28 年度 9 月末に修了予定としている。

今年度の派遣については候補者辞退のため派遣はない。

◆ 24-I 東京医科歯科大学

プログラム名：東南アジア医療・歯科医療ネットワークの構築を目指した大学間交流プログラム

・ジョイントディグリーを検討している場合、相手国・大学・研究科・専攻等、現在の取り組み内容と課題

文部科学省から、平成 27 年 6 月に下記 2 専攻の設置を可とする通知があり、現在、学生募集や入学選抜の準備に取り組んでいるところである。課題としては、修業年限をはじめ、アカデミックカレンダーなどについて、それぞれの国の法令・制度・慣習・文化など異なる点が多く、相手国との調整に予想以上の多くの時間と労力を要することが挙げられる。

①チリ大学（チリ国）：東京医科歯科大学・チリ大学国際連携医学系専攻（平成 28 年 4 月開設）

②チュラロンコーン大学（タイ国）：東京医科歯科大学・チュラロンコーン大学国際連携歯学系専攻（平成 28 年 8 月開設）

◆ 24-I 京都大学

プログラム名：「人間の安全保障」開発を目指した日アセアン双方向人材育成プログラムの構築

・対象の国・大学・(研究科・専攻)

国	大学名	研究科・専攻等
インドネシア	ガジャマダ大学	農学部、林学部、...と実地中
インドネシア	バンドン工科大学	
タイ	チュラロンコン大学	公衆衛生学部と実施中、工学部と検討中
タイ	カセサート大学	農学部、林学部、経済学部、...と実施中
マレーシア	マラヤ大学	工学部、医学部と実施中
シンガポール	シンガポール国立大学	検討中

・現在の取り組み内容・課題

【3年課程ダブルディグリー】

※本学2年課程と相手大学2年課程を併せて3年間で修了するプログラム

■農学研究科：H25年度にガジャマダ大学(UGM)と、H26年度にカセサート大学(KU)とダブルディグリーを開始した。H25年度はUGMから2名が参加し、H26年3月に本学に短期留学、H26年9月後半より1年間、長期留学している。H26年度はUGMから3名、KUから2名が参加し、H27年3月に本学に短期留学、9月後半より1年間、長期留学を予定している。本学からはH26年度に2名がUGMとのダブルディグリーに参加し、H27年3月に短期留学を実施、9月より1年間の長期留学を予定している。H27年度は1名がKUとのダブルディグリーに参加し、8月に短期派遣を予定している(長期留学はH28年9月予定)。

■エネルギー科学研究科：H25年度にマラヤ大学(UM)とバンドン工科大学とダブルディグリーを開始した。H26年度に本学から1名、UMとのダブルディグリーに参加し、H27年3月に短期留学を実施、8月より1年間の長期留学を予定している。シンガポール国立大学とのダブルディグリープログラム開始に向けて、協議を行っている。

【2年課程ダブルディグリー】

※本学2年課程と相手大学1年課程を併せて2年間で修了するプログラム

■本学医学研究科社会健康医学系専攻が、UMおよびチュラロンコン大学(CU)とのダブルディグリーをH26年度に開始した。H26年度はUMから2名、CUから2名がダブルディグリーに参加し、H26年12月に本学に短期留学し、H27年4月から1年間長期留学をしている。本学からは1名がUMとのダブルディグリーに参加し、H26年10月より1年間の長期留学中である。

【課題】

■派遣・受入学生数が増加する一方、補助金減額、JASSO奨学金の枠が減少となったため、学生への経済的支援を継続するための予算を別途獲得する必要がある。

■医学研究科では本事業実施に合わせてH26年度に10月入学制度を導入した。しかし、前期に「〇〇Ⅰ」、後期に「〇〇Ⅱ」等、実質的に4月から通年で履修を要する科目が多いため、ダブルディグリー学生は4月に長期留学を開始している(学籍は10月に発効)。

◆ 24-I 神戸大学（大阪大学）

プログラム名：ASEAN 諸国との連携・協働による次世代医学・保健学グローバルリーダーの育成

・対象の国・大学・（研究科・専攻）※検討中

国	大学名	研究科・専攻等
インドネシア	ガジャマダ大学	医学部
タイ	マヒドン大学	シリラート病院医学部

・現在の取り組み内容・課題

神戸大学医学研究科とガジャマダ大学医学部の間でダブルディグリー（PhD）プログラム実施に向けた協議を進めている。同様に、マヒドン大学シリラート病院医学部とも同プログラム実施に向けた協議を進めている。既に神戸大学医学研究科教授会において、両大学とのダブルディグリープログラム覚書締結が了承されている。今後は、神戸大学本部の承認を経て調整した後、両大学と協定を締結する予定となっている。

・ジョイントディグリーを検討している場合、相手国・大学・研究科・専攻等、現在の取り組み内容と課題

検討していない。

◆ 24-I 愛媛大学（香川大学、高知大学）

プログラム名：日本・インドネシアの農山漁村で展開する6大学協働サービスラーニング・プログラム

・対象の国・大学・（研究科・専攻）※検討中

国	大学名	研究科・専攻等
インドネシア	ガジャマダ大学	農学、農工学、獣医学
インドネシア	ボゴール農業大学	全学
インドネシア	ハサヌディン大学	農学、林学、水産学、畜産学

・現在の取り組み内容・課題

平成24年度から開始したSUIJIジョイントディグリー・マスター・プログラムと平成27年度に開始したSUIJIジョイントディグリー・ドクター・プログラムのダブルディグリープログラムへの発展、または、両プログラムの文部科学省の国際連携教育課程制度に沿ったジョイントディグリープログラムへの組織改革・制度設計への対応を検討している。

・ジョイントディグリーを検討している場合、相手国・大学・研究科・専攻等、現在の取り組み内容と課題

平成24年度から、SUIJIジョイントディグリー・マスター・プログラムを日本3大学（愛媛大学・香川大学・高知大学）とインドネシアの3大学（ガジャマダ大学、ボゴール農業大学・ハサヌディン大学）で実施している。派遣・受入れを行った研究科は、農学（日本3大学）、農学・農工学・獣医学（ガジャマダ大学）、全学（ボゴール農業大学）、農学・林学・水産学・畜産学（ハサヌディン大学）である。平成27年度からSUIJIジョイントディグリー・ドクター・プログラムを開始した。両国の派遣・受入れに関わる奨学金の確保などが目下の課題である。

◆ 24-I 九州大学（早稲田大学）

プログラム名：地球資源工学グローバル人材養成のための学部・大学院ビルドアップ協働教育プログラム

※別添資料あり

・対象の国・大学・（研究科・専攻）

国	大学名	研究科・専攻等
インドネシア	バンドン工科大学	資源・石油工学研究科
インドネシア	ガジャマダ大学	工学研究科
タイ	チュラロンコン大学	工学研究科

・現在の取り組み内容・課題

H26年にバンドン工科大学（ITB）と協定締結し、同年の10月から1名受入を開始した。平成27年度は本学より2名派遣予定である。また、ガジャマダ大学、チュラロンコン大学との協定書締結に向けて現在協議中である。インドネシア政府は単位互換制度を認めているが、ITBの制度としてはまだ認められていない。DDを取得するためには1年半の在籍が必要となるため、学生にとって不利にならないよう調整する必要がある。

・ジョイントディグリーを検討している場合、相手国・大学・研究科・専攻等、現在の取り組み内容と課題

バンドン工科大学（ITB）との検討を行っているが、実施は簡単ではない。

◆ 24-I 明治大学

プログラム名：日本ASEANリテラシーを重視した実務型リーダー育成プログラム

・対象の国・大学・（研究科・専攻）

国	大学名	研究科・専攻等
マレーシア	マレーシア工科大学	ラザック・スクール・オブ・エンジニアリング・アンド・アドバンスト・テクノロジー

・現在の取り組み内容・課題

取組内容については別紙ご参照。
本学ではこのほか、ダブルディグリーコースを2つ、デュアルディグリーコースを1つ有している（いずれもASEAN地域外国の大学）が、コースのさらなる増が課題である。

◆ 24-II 名古屋大学

プログラム名：ASEAN 地域発展のための次世代国際協力リーダー養成プログラム

・ジョイントディグリーを検討している場合、相手国・大学・研究科・専攻等、現在の取り組み
内容と課題

チュラロンコン大学経済学研究科と名古屋大学国際開発研究科における博士後期課程でのジョイントディグリーについて検討中であり、2015 年 12 月には名古屋大学教員がタイに出向いて話し合いを実施する予定。

◆ 24-II 京都大学

プログラム名：「開かれた ASEAN+6」による日本再発見—SEND を核とした国際連携人材育成

※別添資料あり

・対象の国・大学・(研究科・専攻)

国	大学名	研究科・専攻等
台湾	国立台湾大学	管理学院会計学研究科

・現在の取り組み内容・課題

京都大学経営管理大学院が国立台湾大学管理学院会計学研究科とのダブルディグリー制度を 26 年 9 月から開始し、台湾大学側ではすでに学生が入学している。

・ジョイントディグリーを検討している場合、相手国・大学・研究科・専攻等、現在の取り組み
内容と課題

タイ・タマサート大学・国際学部（単位互換が始まっており、続いてジョイントディグリーについて協議に入る予定）
中国・人民大学・経済学院（基本合意書を締結し、ジョイントディグリーの具体化に向けて取り組み中）
ドイツ・ハイデルベルク大学・アジアヨーロッパクラスター（単位互換の制度化・成績評価基準の統一化・基本合意書の今秋締結につき、協議中）
その他、複数の大学と交渉を進めつつある。

◆ 24-II 九州大学

プログラム名：スパイラル型協働教育モデル：リーガルマインドによる普遍性と多様性の均衡を目指して

※別添資料あり

・対象の国・大学・(研究科・専攻)

国	大学名	研究科・専攻等
フィリピン	アテネオ・デ・マニラ大学	ロースクール
マレーシア	マラヤ大学 ※検討中	法学部

・現在の取り組み内容・課題

本事業では、ショートターム交流、セメスター交流、ダブル・ディグリープログラムの三段階のスパイラルアプローチで教育効果を図ることを目指している。提携パートナー校のひとつであり ASEAN 地域でも有数の法科大学院の一つであるフィリピンのアテネオ・デ・マニラ大学アテネオ・ロースクールと、平成27年2月に本学大学院法学府とのダブル・ディグリーにかかる枠組み協定を締結し、平成27年度からの本格的運用を予定している。またマラヤ大学とも、今年度中にダブル・ディグリープログラムを構築すべく、現在検討・交渉中である。

(課題)

本プログラムへの参加は、法学府学生全体へ門戸を開いているが、専門性ゆえに求められる英語運用能力が非常に高く、参加学生の大半は国際コース在籍中の留学生であると見込まれる。日本人学生を本プログラムへ参加させるためには一層の努力が必要。

また、本プログラムは、大学の世界展開力強化事業の枠組みを超えた本学の正規のプログラムとして設置しており、事業終了後も継続するものであるが、事業終了後の奨学金の確保については課題が残る。

◆ 24-II 早稲田大学

プログラム名：「日本語教育学」総合学習プログラムを通じた重層的・循環的人材育成事業

・対象の国・大学・(研究科・専攻)

国	大学名	研究科・専攻等
中国	北京大学	国際関係学院、環境科学与工程学院、
中国	復旦大学	新聞学院
台湾	国立台湾大学	社会科学院 政治学系、管理学院、工学院 建築与城郷研究所、電機資訊学院
シンガポール	シンガポール国立大学	University Scholars Program
アメリカ	コロンビア大学	人文科学大学院 東アジア言語文化研究科 日本文学専攻
アメリカ	アール・カレッジ	教養科目及び専門分野（国際関係学、英文学、宗教学または物理学から選択）

・現在の取り組み内容・課題

現在、アジアを中心にダブルディグリープログラムを実施している。概ね順調であるが、主に大学院レベルのインバランス（受入れ過多）が課題である。

・ジョイントディグリーを検討している場合、相手国・大学・研究科・専攻等、現在の取り組み
内容と課題

ジョイントディグリーは今後検討の可能性はあるが、ダブルディグリーの方に現在は注力している状況である。